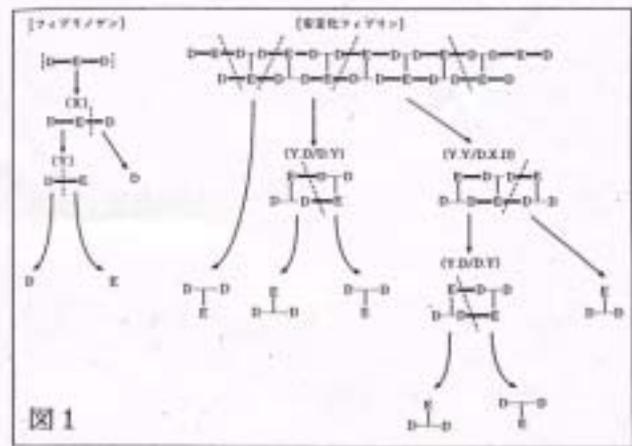


blood news

今回のテーマ “ FDP について ”

FDP はフィブリノゲンやフィブリンのプラスミンによる分解産物の総称です。一般的に、線溶亢進の指標として利用されています。フィブリノゲンは構造上、プラスミンによる線溶分解を受けると最終的に2つの D と E 分画となります (FDP-D と FDP-E)。一方、安定化フィブリンは図1に示すような架橋結合を形成していることから、線溶分解により DDE 架橋複合体が形成されます。これは D ダイマー(D-dimer)として測定されます。線溶亢進は一次性亢進と DIC にみられる二次性亢進に分類され、臨床的にその鑑別が必要となります。Total FDP,FDP-E 分画は線溶亢進全般を反映し、一次線溶の指標として使われます。しかし FDP-E 分画は、フィブリノゲンによる分解産物である FDP-D とは反応しない点が特徴です。また D ダイマーは DDE 架橋複合体を特異的に検出し二次線溶の指標となります。したがって二次線溶の特異度は Total FDP < FDP-E < D ダイマーと高くなります。当院では FDP の測定に FDP-E 分画を採用しており、凝血学的スクリーニングにも特異性の高い試薬を用いています。



“ DIC 診断基準 ”

1988年改訂の厚生省 DIC 診断基準は、Total FDP が用いられています。当院では前述したように FDP-E 分画を測定していますので、ここで FDP-E と T-FDP の相関性について述べてみたいと思います。表1のような換算表が成り立ち、DIC 得点にポイントがのるのは **FDP-E 値が 200ng/ml 以上**です。DIC 診断時の参考にしてください。

表1. 血清 FDP 値と DIC 得点

FDP-E (ng/ml)	FDP 値 (μg/ml)	DIC 得点
200 >	10 >	0
200 ≤ < 1200	10 ≤ < 20	1
1200 ≤ < 3200	20 ≤ < 40	2
3200 ≤	40 ≤	3

“ FDP-E と D ダイマーの相関 ”

DIC にみられる二次線溶亢進は D ダイマーで特異的に検出できますが、FDP-E も DDE 架橋複合体と反応するため図2のような強い相関が得られます。しかし 5%の症例に解離が認められます。FDP-E < D ダイマー(印,4 例)では全例が DIC と診断されますが、FDP-E > D ダイマー(印, 9 例)は癌転移症例と診断されています(6/9 例 : 66%)。 また、2 例は線溶療法施行中でした。このように当院 で測定されている FDP-E 分画や D ダイマーは、種々の凝血学的異常をきたした病態をよく反映します。

